

社長の仕事～その6：社長がすべき勉強

社長になったら、或いは社長になる場合は人一倍勉強する事が必要である。まずは自分の会社の全容を知る事、その為にはあらゆる部門を一通り経験した方が良い。私も入社した当時はかなりの不器用であるのに、機械も一通り操作してみたし、おおざっぱな仕事ぶりながら事務もやっていた。最近では、大きな会社の社長が変装して自分の会社の最前線の仕事を体験する番組が密かな人気だが、それらは興味本位ではなくいかに経営に役立つかという事を考えれば頷ける。私も担当者にははらはらさせたと思うが、今でも役に立っていると思う。次に、他の会社を見る事、取引先は勿論、近隣の同業社や話題の会社など、時には海外企業なども見学会等を利用して見てきたい。それぞれの会社の良い点、悪い点が見えると思う。地元の商工会や同業者組合などにも積極的に参加したい。更に社長の仕事に類似する、リーダーシップやビジネス感覚が身に付くようなことも積極的に行うべきである。球技などの集団のスポーツのキャプテン、或いは市民サークルの代表などはかなり社長の仕事に近い物がある。また、親戚の店の手伝いとか、祭りの時の露店などで物を売ると、なんとなく販売の感覚が身に付く。私も国際交流の団体に入っているので、年に何回か市や県などが主催する祭りなどで、外国の雑貨や食品などを売ったりするが、お客と向き合って販売すると、セールスのコツみたいなものもつかめる感じがする。そして読書、技術書や営業、経理、人事、といった実務書はもちろんだが、経営学書や経営者についての本、できれば経営者自身が書いた本はたくさん読みたい。加えて、歴史書や哲学書などは経営の根本的なところに示唆を与えてくれる。このホームページには「社長の本棚」と「名著に学ぶ経営」というものも掲載しているので、興味のある方はご覧になって頂きたい。新聞や雑誌も同様である。私は工業系の新聞2紙と地方紙は毎朝、日経新聞も週に2～3回は購読している。30年以上続けているので3万部以上目を通したことになる。雑誌も毎月ビジネス誌を2つ3つ読んでいるので、こちらも1千部くらいは目を通した。勿論新聞も雑誌も関心があるところだけなので、実際に読んでいるのは3分の1とか半分程度である。更には、テレビやインターネットの情報も重要である。テレビでもニュースやビジネス番組、ドキュメンタリー、更には企業物のテレビドラマや映画も勉強になる。勿論歴史番組や歴史ドラマも同様である。また、時間がある時はインターネットでいろいろ調べたら良い。顧客やライバルの製品情報、話題の会社や気になる会社の企業情報、業界の動向、経済の動向など、調べるべきことはいくらかもある。受験もどれだけ何を勉強したかで大方決まるが、経営も半分くらいは勉強次第で決まると思う。